南部盛岡藩文芸人名録（稿）

高橋昌彦

はじめに

江戸時代も中期になると、諸藩は競うように藩校を作り、教育や学芸・武芸に力を入れていく。早い時期は、藩主の嗜好がそのまま藩内に影響を与えているが、やがて藩士町人を問わず、学問を始め諸芸に打ち込む者が増えてくる。それは、奥州に長く根を下ろした南部盛岡藩も例外ではない。今日忘れ去られた人々を含め、多くの学者・文人墨客が足跡を残しており、それらの姓名や略伝を知ることは、地域の文化を考える上で極めて重要なことと言える。幸いにも、その情報を知るのに打って付けの資料が現存しており、その著述を利用し、新たに編んだのが本稿である。まだ不完全な稿ではあるが、公にして遺漏・訂正などを乞う次第である。

もりおか歴史文化館には『文藻諸芸人名録』（請求番号５００５、以下『文藻』と略す）という近代に書写された半紙本四巻四冊が所蔵されている。各冊頭には「楓園」の朱印があり、岩手の郷土史を支えた、『南部叢書』等の編者太田孝太郎氏の旧蔵本とわかる。その構成を見ると、一冊目は墨付九十六丁、五十音順の号引き人名録。二冊目は墨付百四丁、イロハ順の号引き人名録。冒頭に「山本縁輯録」本を増訂した旨の識語が記されている。三冊目は墨付七十六丁、一見すると並び方に規則性は見えないが、順次確認していくと墓所毎に並んでいることがわかる。四冊目は墨付七十九丁、五十音順の号引き人名録となっている。但し、一冊目とは違う書式・内容である。原本は、二冊目以外不明であるが、恐らくは太田氏が蒐集してまとめたものと考えられる。氏は、『盛岡市史』別篇「人物志」正編（昭和二十九年）・続編（昭和三十六年）・再続編（昭和三十九年）の三冊に百数十人の評伝を載せており、更に再続編の末尾には「盛岡諸家忌辰録」を附して、千人以上の人物の名前・分野・没年などを、菩提寺ごとに紹介している。『文藻』と「盛岡諸家忌辰録」の対照を試みると、同じ人物について、没年はあるが享年がないなど、記事に共通点が見受けられ、基礎資料として使用された可能性が大きいことがわかる。一方で、『文藻』にのみ登場する人物もいて、どこまで利用したか判然としないところもある。

内容に目を通すと、『文藻』四冊には、重複する名がかなり見受けられる。そして、人名の中で、最も多くの数を擁する分野は、俳諧に携わった人々である。他の分野を数で圧倒しているが、それだけに一人一人の情報量は少なく、俳号と俗称のみが記されている例も少なくない。本稿では、できるだけ情報量の多い人物を採り上げることにしたため、自ずと俳人・誹諧師のみで登場する者は外すこととなった。加えて、もし、これらを含めた場合、本稿の紙数は十倍以上に脹らむ可能性があったことも理由となった。尚、岩手の江戸から近代に到る誹諧につ

いては、既に小林文夫氏『岩手俳諧史』（昭和五十三年・萬葉堂出版）が公刊されているので、そちらを参照されたい。

さて、このように人名録を整理してみると、あらためて気付かされることがある。まずは、江戸前期において、その名を留めているのが、罪を得て藩に預けられた人々であるということ。黒田騒動の栗山大膳や柳川一件の方長老などがそれにあたる。長岡高人『盛岡藩学通史』（昭和四十三年・盛岡市教育研究所）には、

> 徳川幕府によって新規に取り立てられた大名や他国に移封された大名は、所領の移動や新設によって、前近世的な遺制や慣習を中断刷新する機会を持ち、割合に早く藩政のうえに近世的な文治主義の特色を発揮することができた。これに対して、いわゆる旧族居付の大名は、中世の戦国乱世に武力闘争の場面になった領国にそのまま居坐っただけに、かつての武装割拠時代の武断主義の伝統や遺風が根強く残っていた。

とあり、南部氏もまた、文治主義に乗り遅れた藩の一つであったことが語られている。自前の文人が出てくるためには、他藩の遷客に学ぶ必要があったということになろう。

やがて藩主の中に、好学の者が登場してくる。時は元禄前後、藩主は南部重信・行信親子である。『貞享落穂集』（写・大本一冊、もりおか歴史文化館蔵、請求番号95―1）には、林鳳岡等との詩会・歌会における両公の文事が伺える。まだ、金の産出により、藩政が保たれていた時期である。しかし、そのまま文化的な広がりを見せるはずが、江戸中期には一気に凋んでしまう。続く、信恩・利幹公による儒学排斥がその要因である。藩内の権力闘争に起因するものであったが、結果、儒者たちを中心にして漢詩文が流行し、文人が輩出するといったような動きは現れなかったのである。勿論、江戸後期から明治初期になるとそれなりに漢学者も登場してくるが、他藩では江戸中期から数を増し、藩校創設が盛んに行われるのに対し、以下の人名録を見ても中期の漢学者の数は決して多くはないことが見て取れよう。

江戸中期の藩主たちの多くは、誹諧を盛んに行い、利雄・利正のように俳書を上梓する殿様もいる。実は、南部家にも文事の面において傑出した人物がいた。それが、利雄公の世子利謹である。漢詩文・和歌・誹諧・書道等々と多岐に亘る著述が、現在まで残っている。この人物が廃嫡されなければ、盛岡藩の学芸は大きく変わっていたかもしれない。いずれ稿を改め、南部利謹についてはふれたいと考えている。

漢学者に限らず、以下の人名録に出てくる人々の多くは、江戸後期から明治初期に活躍した人物である。政治的には一揆が頻発するなど、他藩に比べ安定していたとは言えないが、それでも名を残す者がこれだけ出現するということは、それなりに土壌というものが培われていたと言えるかもしれない。以下の人名録の中に、その礎を築いた者がいると言えるだろう。今後の研究が待たれるところである。なお、南部盛岡藩の歴史については、菊池悟朗『南部史要』（明治四十四年原本、平成十年復刻・旧盛岡藩士桑田発行）などで通観することができる。また、盛岡藩の基本史料の情報を得る方法としてホームページ「近世こもんじょ館」（www.komonjokan.net）が開設されている。

凡　例

一　現在の岩手県（盛岡藩を中心に、合わせて一関藩も含む）に生まれた者を中心に採り上げたが、他国からやって来て影響を与えた人物も選り出した。

一　原則として、江戸時代に生まれ、成人した人物を採り上げた。人名は五十音順に並べた。見出しの名は、ゴチックで示し、基本的には通称で掲げたが、号が定着している一部の人物については、号を載せた。人物一人につき、一～二行に収めることを旨とした。

一　見出しに続けて、分野、別称、人物に関する説明、生没年・享年、菩提寺の順で記した。不明な項目については省略している。

一　人物の主な分野・肩書きは、詩人・歌人・画家・書家・漢学者・国学者・兵学者・医者などである。複数に該当する場合は略記して並べた。

一　別称とは、名・俗称・字・号などである。
一　人物の説明としては、家系・学問の系譜・役職・著述などを載せた。
一　生没年・享年について、諸説がある場合は（　）で記した。
一　個々の人物についての伝記がある場合は、※の後に記した。頻出する『盛岡市史』別篇「人物志」の、正編は「正」、続編は「続」、再続編は「再続」と略し、浦田敬三・藤井茂編『岩手人名辞典』（二〇〇九年・財団法人新渡戸基金）に載る場合は「辞典」と略した。

付記

『文藻』の閲覧・撮影に際し、先に盛岡市中央公民館、蔵書移転後はもりおか歴史文化館にたいへんお世話になりました。また、参考図書や関連本調査では岩手県立図書館を煩わせました。深く感謝申し上げます。併せて、三年にわたる調査期間中、岩手は大震災により大きな被害を受けました。謹んでお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復興を心よりお祈りいたしております。

あ

相原友直　医者。三畏。仙台藩医。著「平泉雑記」「気仙風土草」等。天明二年一月二十一日没、八十歳。※「辞典」

青木恭伯　医者。逸民・眠山・積翠。明治二十五年四月二十日没、七十八（七十六）歳。大迫到岸寺。

赤坂石泉　画家。祐吉・仙平・勝昌。もと大槻氏。岸礼に師事。明治二十年八月二日没、八十二歳。竜谷寺。※「再続」「辞典」

赤沢儀左衛門　画家。吉風・松峯山人・東奥逸人。南画。文化十四年五月二日没。源勝寺。

赤沢半左衛門　歌・俳。吉寛・柏台。蜀山人と友善。文政四年十月十四日没、五十四歳。源勝寺。

赤沢林治　書・画・詩。治徳・村二・霞月。明治二十三年八月六日没、七十二歳。東顕寺。

浅石九八郎　漢学者。長憲・篤斎。東條一堂門。没年不詳。報恩寺。

浅石治左衛門　兵学者。長安・竹水。著「孫氏漫解」「呉氏漫解」「鉄炮話」「養蚕新説」「山陽随筆」等。明治七年没、六十余歳。

穴沢宇右衛門　詩人。栄祐・蘭水。享保十三年一月二十五日没。聖寿寺。

穴津祐禎　医・詩。春斎・天然堂大魯。明治十二年十一月八日没、四十九歳。東禅寺。

阿部将翁　本草家。輝任・照任・友之進・伯重。著「採薬使記」等。慶安三年生、宝暦三年一月二十八日没、一〇四歳。台東区梅林寺。※「続」「辞典」

い

池野祐寿　歌人。藤兵衛・木津屋。商人。著「きさらき日記」「祐寿歌集」。万延元年七月五日没、六十七歳。本誓寺。※「正」「辞典」

伊沢瑞泉　医・詩。世徳・南柯・槐庵。明治四年十二月没、五十四歳。東顕寺。

石亀千春　画家。保太・隆・鶴年・葎庵・葎園。文久二年四月五日没、六十九歳。東顕寺。

石沢理兵衛　画家。道雄・遊鶴。湯川玉流門。文化十一年一月十九日没、六十二歳。永泉寺。

石原汀　茶人。保兵衛・興禎・閑松庵如白。家老のちに閉門。不白流。著「妙楽夢物語」。文化十四年一月十日生、明治三十八年三月二十日没、八十九歳。源勝寺に分骨。※「再続」「辞典」

板垣桑蔭　漢学者。はじめ佐々木直作、政純・政統・子得・羊我・直斎。嘉永三年侍読に任用、その後助教。文化十四年十二月二十日生、明治二十七年十一月八日没、七十八歳。法華寺。※「辞典」

一戸光謙　書家。もと中村七郎右衛門・素堂。明治十七年二月一日没、五十六歳。大泉寺。

市原謙助　史家。忠寄・篤焉。文化十四年より天保十八年まで二十三年間、諸書諸記録を渉猟して南部家に関する事実口碑を収録し「篤焉家訓」を編む。弘化三年一月三日没。法泉寺。

伊藤弁司　漢学者。長有・無公・苗処。芳野金陵門。助教。明治八年九月十三日没。

伊藤祐清　史家。著「祐清私記」「系胤譜考」。延享二年二月没。※「辞典」

入江九郎兵衛　歌人。直房。宝暦六年十一月二日没。

岩井平之丞　工・狂歌。鉄研（硯）舎・鎚廼音成。著「いろは歌」「天保四年凶作百首」。安政六年十二月十五日没、八十三歳。教浄寺。

岩間理右衛門　歌・書。宣能・宣道・可楽・乙鳥。慶応三年二月十五日没。教浄寺。

う

内堀宗園（円）　歌人。幸政・勘平・浅右衛門。元禄一年二月十七日没、八十歳。聖寿寺。

宇夫方広隆　史家。遠野の人。著「阿曽沼興廃記」「遠野古事記」等。明和五年没。※「辞典」

漆戸勘右衛門　歌人。茂喬。書は加藤千蔭に私淑。嘉永六年一月晦日没、七十三歳。報恩寺。

漆戸勘左衛門　漢学者。正茂・東壑・雪松。石川丈山に従遊。寛文七年七月二十八日（十一月二十四日）没。六十三歳。報恩寺。

漆戸甚左衛門　書家。茂英・主膳・石見・峯青。尊円流。延享三年四月七（三）日没、七十九歳。報恩寺。

漆戸直矢　国学。茂樹。著「若葉の幣」「分量勘定考」「隣国便覧秘集」等。明治六年十月二日（明治三年閏十月十八日）没、八十四（八十一）歳。報恩寺。

漆戸力之進　画家。茂達・一山。文久二年十二月二十六日没、五十五歳。

海野操　画家。もと高橋氏、邦彦・楳岳・海雲。勝川雅信に学び、のち岸岱に師事。明治十年六月十二（十五）日没、五十六歳。久昌寺。※「再続」「辞典」

え

江刺恒久　国学。和多里・菊廼屋。明治三十三年一月四（三）日没、七十五歳。報恩寺。

江繋喜左衛門　漢学者。政陽・渓村・毅斎。著「野史」。文久三年二月二十二日没、五十一歳。祇陀寺。※「続」「辞典」

江幡春庵　医者。通誠・中行・訥斎。那珂梧楼の兄。嘉永二年九月二十日没、三十三歳。大泉寺。※「正」「辞典」

遠藤長純　漢学者。松園・繁。作人館助教。天保四年八月二十九日生、明治三十四年五月二十六日没、六十九歳。法華寺

遠藤長俸　漢学者。幹斎・喜左衛門。助教。慶応三年一月二十九日没、六十二歳。法華寺。

遠藤俊平　医者。甫識・大義堂・東奥処士・仞斎。葛巻の人。大義堂塾を開き、後進を指導。著「医殻」等。嘉永六年五月十九日没、六十歳。※「辞典」

お

及川金治　書家。恒一・華山。花巻の人。明治三十二年十二月十二日没、七十二歳。天岩山寺。

及川佐忠　漢学者。恒順（定）・華山・善養。花巻の人。天明八年十一月二十二日没、六十一歳。

及川良寿　医・歌。著「祈年集」「桃廼舎集」等。天保元年九月十三日生、明治

四十年一月二十七日没、七十八歳。花巻市凌雲寺。※「辞典」

大嶋周意　儒医。高基。文久一年二月二十九日没、六十一歳。永泉寺。

太田孝　書家。鶴舟。市河米庵に私淑。著「古今和歌集講義録」等。明治三十一年七月二十四日没、六十六歳。久昌寺。

太田小十郎　兵学。久徹・三平・竹塘・裏銕軒。新当流槍術。詩歌書画にも長ず。明治六年六月十一日没、六十四歳。久昌寺。

太田忠儔　漢学・書。子良・泌園。塚田多門門。文政三年六月二十六日没、五十四歳。長松院。

太田代恒徳　漢学者。不知庵・芳野・東谷・塩谷。助教。著「辨説南部八世小伝」「南部五世伝辨妄」等。明治三十四年三月二十四日没、六十七歳。※「正」「辞典」

大巻喜六　漢学者。秀胤・知還・岫雲。林大学頭門人。寛保二年二月二十二日没。竜谷寺。

岡井尚絅　儒医。孝継・述斎。万延元年六月三日没、三十歳。本誓寺。

小笠原競　兵学・歌。もと奥瀬衛門と称す。明治二十八年十一月十三日没、七十五歳。永祥院。

沖市右衛門　経世家。友庵・忠敬。北川尚亭門。著「御倹約」「志戸平温泉記」等。元文四年十二月十四日没。大泉寺。

奥弾之進　儒学・兵。次顕・尚友・東龍斎。北川尚亭門。槍術。元文三年八月一日没。法泉寺。

奥寺八右衛門　書・俳。定振・山厚・岐山・橘庵。市河米庵流。明治五年十一月二十三日没、六十八歳。東顕寺。

奥山弥（孫）七　漢学者。供寛。助教。嘉永二（三）年九月八日没、七十二歳。吉祥寺。

奥山弥七　漢学者。供定。天明七年八月二十九日没。

小栗市之助　遷客。良純。松平越後守家臣小栗千蔵の子。越後騒動の後、天和元年盛岡に謫流。享保五年に赦免。

小田仙弥　漢学者。為綱・天真。初め板垣桑陰に学び、後に芳野金陵門。作人館教授・寮長。天保十年九月二十九日生、明治三十四年四月五日没。※「小田為綱の研究」

小寺顕義　画家。左衛記・公質・温知。嘉永二年九月十六日没、七十四歳。大慈寺。※「正」

小寺顕秀　医者。玄仲。天保六年九月二十七日没、四十八歳。大慈寺。

小寺昌育　漢学者。利幹公の命により林門に学ぶ。享保十三年没、二十一歳。大慈寺。

小野栗野　漢学者。清助・勝典・立礼。酒屋。文政九年一月七日没、四十四歳。本誓寺。※「正」

小原実風　国学。花巻の人。平田篤胤に学ぶ。著「神典抄」「瀧の舎集」等。文政十一年四月二十二日生、明治三十三年一月十一日没、七十三歳。※「辞典」

小本新兵衛　歌人。元禄十年三月二十四日没。聖寿寺。

小本尚芳　歌・書。文化十一年三月一日没、七十三歳。聖寿寺。

小山田文右衛門　漢学者。左七郎・宗敦。花巻の人。足沢左十郎義道に師事。元禄十三年に召出、納戸役となる。同十四年没。雄山寺。

か

帷子一根　天文。吉和・忠右衛門・可有。北川尚亭門。享保二十年七月二十三（三）日切腹。大泉寺。

葛原対月　僧・歌。旧姓工藤。竜谷寺十六世。後、青森県野辺地常光寺住職。石川啄木の伯父。明治四十三年十一月八日没、八十五歳。※「辞典」

加藤永朴　画家。曽右衛門・鷲峰。天保十年十一月九日没、九十五（九十二）歳。大泉寺。

金矢又四郎　書・画。光春・子陽・睡蝶。安政六年六月十一日没、八十一歳。報恩寺。

狩野一信　画家。金五郎・永頴。享保二年江戸にて召し出される。宝暦九年二月

二十二日没。池上本門寺。

狩野佐助　画家。林泉。湯川玉流門。明治九年七月十八日没、八十二歳。長松院。

狩野林泉　画家。元文五年五月二十一日没。長松院。

鴨沢十兵衛　書家。松右衛門・金右衛門・恒篤・恒章。宝永一年七月十一日没、五十九歳。大慈寺。

川井小平治　画・俳。景貞・子暁・鶴亭・春歩。安政六年五月八（七）日没、六十三歳。竜谷寺。※「再続」

川上恭蔵　儒医。玄之・白雲楼。助教。明治三十一年八月二十一日没、七十二歳。法泉寺。※「再続」「辞典」

川口月村　画家。亀次郎・宜寿・蜂窠。月嶺の子。明治三十七年十月十七日没、六十歳。永福寺。※「再続」

川口月嶺　書・画。七之助・直七・義度・有度・蜂窩。鈴木南嶺門。明治四年七月二十二日没、六十歳。永福寺。※「正」「辞典」

河野智隆　書・僧。大嶽。教浄寺住職。明治二十三年六月一日没、五十七歳。

河野兵部左衛門　兵・天文。則胤・慶右衛門・梅渓。甲州流兵学は松岡慈門、天文は帷子可有、町間根発術（測量術）は簗田義重に学ぶ。他に画をよくす。宝暦十二年五月没、七十一歳。郡山来迎寺。

き

菊池正古　国学。平田篤胤に師事。著「松の五百枝」「松屋歌文集」等。慶応三年二月十二日没、五十九歳。※「辞典」

菊池常方　漢詩人。冨弥・公実・小崖・凞斎。奈良眞守の二男。明治三十二年十二月二十四日没、六十二歳。大泉寺。

北九兵衛　兵学者。栄継・可継・豊之助・梅庵・林庵。甲州流軍学。家老。享保十七年二月十四日没、六十二歳。聖寿寺。

北川新左衛門　漢学・兵。宗俊・尚亭。無方長老に学ぶ。著「三字経」等。享保六年十二月没。聖寿寺。

衣関順庵　医者。道碩。江戸の人。眼科。著「眼目明辨」等。文化十年十一月十五日没、五十歳。一関瑞泉寺。※「辞典」

鳩峯　僧侶。大愚智哲。報恩寺十九世。宝暦十三年四月二十二日入寺。天明八（七）年十一月一日没、七十八歳。

京極高国　遷客。丹後宮津城主。寛文六年、盛岡に謫流。延宝三年十二月二十四日没。広福寺。

清岡道香　国学。里三郎・是三・梅坡。旧姓鎌田。花巻の人。本居大平門。明治十年三月二十一日没、七十六歳。※「続」「辞典」

桐生左膳　書家。邑宰・笠庵。米庵流。明治五年一月十二日没、六十二歳。大慈寺。

く

久慈喜八郎　書家。満薫・文眞・東皐・筆華堂。もと猿橋文饒門、後佐々木玄龍・文山に従学。孟魯軒の筆法を伝える。安永九年九月十二日没、六十五歳。聖寿寺。

久慈丹左衛門　書家。新城・文和。文眞の子。文化五年三月二十八日没。聖寿寺。

久保田吉厚　画家。多宮・玉僊。慶応二年七月二十八日没、三十七歳。永祥院。

倉部敘　儒医。鈴木新蔵・貢父。享保十七年八月六日生、文化五年八月二十二日没、七十七歳。報恩寺。

栗谷川勝衛　農学。仁右衛門の子。父の志を継ぐ。明治二十八年三月三十日没、五十二歳。

栗谷川仁右衛門　農学。野休翁。植立奉行に任用。万延元年閏三月十六日没、七十五歳。天昌寺。

栗山大估　遷客。利周・雖失。父大膳とともに盛岡に謫流。延宝四年四月二十七日没、五十四歳。広福寺。

栗山大膳　遷客。五兵衛・利章・子文。福岡藩家老。寛永十年、盛岡に謫流。承応元年三月一（二）日没、六十二歳。広福寺。※「正」「辞典」

黒川其水　歌人。天明四年四月五日没。聖寿寺。

黒川伴蔵　漢学者。居雄。利視公の代、三戸郡代官。在任中、享保二十年十二月九日狂疾により屠腹。大泉寺。

黒川盛隆　国学。司・凹斎・松廼屋。著「松の下草」等。文政十二年十二月四日没、六十二歳。聖寿寺。※「正」

黒川滝津　歌人。柳園。盛隆の子。南部桜園と歌集「春の錦」を編。嘉永二年七月二十九日没、六十一歳。聖寿寺。

黒沢茂太　漢学者。定持・鏡岩。那珂梧楼門。明治三年没。

け

毛馬内直温　詩・書。桃太郎・璞庵。米庵流。明治九年十二月九日没、五十一歳。法華寺。

こ

駒井吉郎兵衛　書・俳。隆明。宮古の人。文政六年生、明治二十八年没、七十二歳。

昆喜右（左）衛門　漢学者。如水。宝永二年一月十五日没。報恩寺。

さ

佐久間宇助　漢学者。光典。文化十四年六月十四日没、五十二歳。

佐久間宇助　漢学者。光豹・立斎。藩儒。嘉永七年三月二十三日没、七十六歳。久昌寺。

佐々木寿山　儒医。初め高杉立意、中ごろ川守田氏、成式・栄孝堂。下田芳沢・山本北山と親善。安政三年四月二十三日没、七十三歳。大泉寺。

佐々木多助　医師。綱紀・酒上成・酒上鳴。著「絵登呂府嶋眠草」。文政二年十二月十日没、五十七歳。永祥院。

佐藤四平　漢詩人。四州。相去村の人。明治二十六年四月二日没、二十五歳。

猿橋野右衛門　書家。義連・八郎・甚五左衛門・文饒。佐々木文山門。元文二年八月二十八日没。永祥院。

猿橋勇助　書・画・狂歌。義近・源五郎・墨哉・亀和山人。祐筆。元文四年生、享和元年十一月十五日没、七十三歳。永祥院。※「正」「辞典」

沢出源佐久　漢学者。直方・椿庵。東條一堂門。嘉永四年七月二十七日没、四十七歳。東顕寺。

三戸駿河　書家。済彰・風流亭。初め戸次氏。家老。米庵流。嘉永六年九月十五日没、三十五歳。聖寿寺。

し

七宮孚盛　漢学者。昌平黌に学ぶ。教成寮学頭。明治四十二年没、七十五歳。※「辞典」

芝田源右衛門　書家。将武・知哲・梅松軒。門人数五百有余。延享四年五月十四（二十四）日没。光台寺。

芝田源右衛門　書家。将矩。湛水の子。弘化四年九（十一）月八日没、三十三歳。光台寺。

芝田正七　書家。将賀・湛水・南棄軒。将武の子。文化元年十二月二十二日没、七十七歳。光台寺。

嶋懐遠　医・画。寿安・子徳・鵲斎。天保八年九月二十日没、五十一歳。法泉寺。

嶋玄泰　医・俳。通虎・不昧庵・墨智。嶋立甫の六子。明和六年、召されて医官となる。著「とそ草紙」。文化十四年四月二十三日没、七十二歳。法泉寺。

嶋忠之　医・書。有方・李渓。東條一堂・芳野金陵等に従学。勤皇家。文政七年一月十日生、明治三十四年十二月九日没、七十八歳。花巻瑞興寺。※「辞典」

嶋川融機　国学。鎌満。黒川盛隆の次男。用人。安政の大地震で江戸に没す。安政二年十月二日没、五十五歳。法華寺。

清水右衛門七　歌人。秋全。宝暦元年、利視公の命をうけ「名所順道記」を編す。明和三年三月十日没、六十一歳。東顕寺。

下田一治　漢学者。行郷・子仰・乾々堂。朝川善庵門。下田芳沢の孫。文政六年十一月十五日没、二十二歳。江戸芝金地院二玄庵。

下田三蔵　漢学者。武郷・一甫・芳沢。藩儒。文政三年四月二十四日没、七十一歳。恩流寺。

下田春治　漢学者。日就堂。下田一治の子、佐久間光豹の弟。万延元年七月十日没、五十八歳。恩流寺。

下田将監　兵学。秀虎・空来（林）。弘化四年五月十一日没、六十六（六十八）歳。恩流寺。

下田物集女　兵・歌。栄隆・常山。宝蔵院槍術師範。天保八年九月二十九日没、七十四歳。法華寺。

下村宣平　詩・歌。由章・奚疑。寛文六年、丹後宮津城主京極高国の盛岡謫流に従う。延宝三年、南部重信の臣となる。著「盛岡紀行」「南部興補録」「高国配流顛末」等。元禄四年十月十六日没。長松院。

す

鈴木貢父　儒医。主税・新蔵。香川南洋・伊藤東涯に師事。文化五年八月二十二日没、七十七歳。報恩寺。※「再続」

せ

瀬山命助　歌人。資章・雪庵。留守居役。著「思出草」。文化四年十月十日生、安政六年六月二十日没、五十三歳。※「再続」「辞典」「瀬山命助物語」

瀬山門治　漢学者。福益・一宇。東條一堂門。嘉永一年助教。嘉永六年十二月二十七日没、三十七歳。光台寺。

仙石源右衛門　歌人。宝暦十二年八月十七日没。

た

高田立察　儒医。文化八年、軍医として北海道警備に赴く。文化十年十月二十五日（文政十二年十二月二十六日）没。祇陀寺。

高橋市右衛門　漢学者。盛征・東岳。享保六年脱藩。江戸に行き、服部南郭門に入る。後、本多伯耆守に仕える。天明四年六月二十三日没。久昌寺。

高橋十助　画家。武軌・一龍斎・雲峰・嵩山。弘化四年十一月十三日没、五十二歳。法泉寺。

高橋十助　画家。雲岳。嘉永四年十一月二十八日没、三十一歳。法泉寺。

高橋判左衛門　漢学者。長熙・子績・直養・平六・東洋亭。宮古の人。著「沢内風土記」等。元禄十三年四月十四日生、天明元年八月十四日没、八十二歳。

高橋文中　漢学者。宮古の人。井上蘭台に学ぶ。山県大弐と親善。寛政十二年八月八日没、七十二歳。※「辞典」

高平真藤　国学。一関藩士。著「平泉史」。明治二十八年没、六十五歳。※「辞典」

田鎖左膳　兵学者。六兵衛・高行・修古堂。家老。万延元年七月七日没、五十七歳。正伝寺。※「再続」

田鎖光龍　画家。矢柄・希亮・鶴立斎。安永二年六月十二日生、文政十二年六月十五日没、五十七歳。法泉寺。※「正」

田鎖治左衛門　俳・詩。治五右衛門・光寛・指鴻。文政二年九月十一日没。源勝寺。

田鎖泰次郎　俳・詩。光懿・蘭皐。光寛の長子。文政二年四月七日没。源勝寺。

田口八十五郎　画・俳。藤長・森蔭・雪廼屋。二代喜多川歌麿に師事。安政六年七月五日没、六十七歳。願教寺。※「正」「再続」

田口弥右衛門　漢学者。藤好・章山。享保元年三（十二）月十六日没。願教寺。

建部清庵　医者。一関藩医。大槻玄沢の師。著「阿蘭陀医事問答」「民間備荒録」。天明二年三月四日没、七十一歳。一関祥雲寺。※「辞典」

多田新助　詩・兵。吉明・春水・宕山・五睡堂。剣術。承応一年生、享保十七年十月十一日没、八十一歳。恩流寺。

立花勝寿　書家。源吾。用人。米庵門。天明三年七月十日生、天保四年十二月二十九日没、五十一歳。大泉寺。

谷崎将庸　画・俳。善六・白兎。万延元年七月二十（二十二）日没、四十三歳。長松院。

田村建顕　一関藩主。一関藩中興の祖。文事に精通。宝永五年没、五十三歳。高輪東禅寺。※「辞典」

ち

千種平角　詩・歌。成暢・素適。明治十二年四月二十七日没、六十六（六十七）歳。源勝寺。

千葉逸斎　漢学者。一関の人。文政五年、一関藩儒。嘉永元年没、五十七歳。※「辞典」

千葉胤秀　和算。花泉の人。長谷川寛に学ぶ。著「算法新書」。嘉永二年二月四日没、七十五歳。一関祥雲寺。※「辞典」

千原澄空　僧・詩。光照寺二十六世。明治三十九年五月四日没、八十一歳。※「再続」

つ

遂翁元盧　僧・画。慧牧・浮島。野州の人。天明元年、盛岡東禅寺に留錫。寛政元年十二月二十日没、七十三歳。

て

照井全都　漢学・画。小作・一宅・蟷螂子。助教。明治十四年二月二十一日没、六十三歳。恩流寺。※「正」「辞典」

と

戸沢与一　歌人。桂園・梅冨。検校。寛政五年十一月十九日生、嘉永六年九月十五日没、六十一歳。聖寿寺。

栃内吉哉　儒学者。左松・右竹楼主。著「文法指証」。明治十四年二月十九日没、五十六歳。報恩寺。

栃内与兵衛　兵学・詩・俳。逢吉・竹水。明治九年四月十八日没、七十六歳。報恩寺。

な

内藤仙蔵　漢学者。貞修・天爵・楽善斎。藩重臣桜庭氏の臣。内藤湖南の祖父。嘉永五（二）年八月二十日没、五十六歳。長松院。※「辞典」

那珂通高　漢学者。堅弥・五郎・江幡梧楼・蘇隠。安政五年、明義堂作人館の教授。学制改革。著「梧楼日記」等。明治十二年五月一日没、五十三歳。東京青山霊園。※「正」「辞典」

中川原判平　漢学者。如水・忠敬。北川尚亭門。享保十五年八月二十三日没。永

祥院。

中嶋三右衛門　漢学者。高則。寛保二年九月二十六日没。

中嶋三右衛門　漢学者。高廉・伯直・予斎。藩儒。中嶋良平の三男。弘化五年二月十八日没、四十九歳。久昌寺。

中嶋腸（脇）右衛門　書家。昌純。祐筆。文化七年九月十二日没。東顕寺。

中嶋良平　漢学者。高寛・積水。大窪詩仏・朝川善庵と親善。著「盛藩年表」。弘化三年九（六）月七日没、七十六（七十七）歳。久昌寺。

中嶋和喜右衛門　書家。昌隆。祐筆。明和六年十二月一日没。東顕寺。

永根元哲　書・漢学。別名北條鉉、伍石・氷斎。著「集古帖」「清三朝紀事」等。明和二年二月八日生、天保九年七月二十日没、七十四歳。江戸芝金地院。

永根文峰　書・詩。奕孫・亦大・静娯室。氷斎の子。姫路藩儒。著「草聖彙弁」等。享和二年生、天保四年三月二十八日没、三十二歳。江戸芝金地院。※「続」

永嶺清麿　画家。将続・九郎衛門・梅林舎。二代歌麿に学ぶ。嘉永六年九月十六日没、六十五歳。長松院。※「再続」

永嶺将在　国学・書。市兵衛・菊麿・歌翁。清麿の子。明治十四年一月二十三日没、七十歳。長松院。※「再続」

中村仁左衛門　画家。栄啓・東峰。万延元年九月十八日没、四十六歳。

中村東馬　詩・画。勝承・松水。著「松水詩稿」。安政三年十月二十三日没、八十三歳。永泉寺。

奈（名）須川良平　漢学者。千八・他人・他山。花巻の人。東條一堂門。明治三十三年二月三日没、七十一歳。花巻宗青寺。※「辞典」

楢山宇八郎　国学・兵学。隆膺・旭桜。慶應三年一月九日没、七十歳。聖寿寺。

楢山五左衛門　家老。隆吉・佐渡。天保二年五月生、明治二年六月二十二（二十三）日没、三十九歳。聖寿寺。※「正」「再続」「辞典」「楢山佐渡のすべて」

南部宜民　漢学者。杜陵山人。不幸にして短命。著「遠野史談」。没年不詳。

南部行信　盛岡藩主（三十代）。重信の子。儒学を奨励。兵学・能楽に通ず。寛永十九年八月十七日生、元禄十五年十月十一日没、六十一歳。聖寿寺。※「続」「再続」

南部重信　盛岡藩主（二十九代）。著「酉卒歌集」等。元和二年五月十五日生、元禄十五年六月十八日没、八十七歳。聖寿寺。※「再続」

南部信也　歌人。信順・左近・桜園。天保六年七月十四日没、三十八歳。東禅寺。

南部直政　八戸藩主。武太夫・松洞・南浩然。八戸城主直房の嫡子。林大学と友善、将軍綱吉の側用人。著「文林全集」。元禄七年十二月没、三十九歳。江戸芝金地院。※「辞典」

南部利謹　漢学・詩・書。利雄の子。廃嫡となる。博学にして多くの著述が残る。延享三年八月十六日生、文化十一年十一月十九日没、六十九歳。聖寿寺。※「続」「再続」「辞典」

南部利剛　盛岡藩主（四十代）。利済の子。文武を奨励。著「桜園集」。文政九年十二月二十八日生、明治二十九年十一月二日没、七十一歳。文京区護国寺。※「再続」「辞典」

南部利済　盛岡藩主（三十八代）。利謹の子。能楽・書に通ず。寛政九年八月二十九日生、安政二年四月十四日没、五十九歳。聖寿寺。※「再続」「辞典」

南部利視　盛岡藩主（三十三代）。武芸・誹諧に通じ、多くの著述が残る。宝永五年四月二十四日生、宝暦二年三月二十八日没、四十五歳。聖寿寺。※「再続」

南部利正　盛岡藩主（三十五代）。利視の子。誹諧を好み、歳旦帖を刊行。宝暦元年四月九日生、天明五年五月五日没、三十三歳。東禅寺。※「再続」

南部利雄　盛岡藩主（三十四代）。能楽・茶を好み、誹諧を善す。五十賀集「松花集」。安永八年十二月五日没、五十六歳。聖寿寺。※「再続」

南嶺祖岳　僧侶。源勝寺二十九世。花輪村長年寺印成の弟子。元治元年十月三（三十）日没、七十（七十三）歳。

に

新渡戸姫岳　書・画・詩・歌・俳。明洗・辨珠。峯寿院住職。蕪村に師事。文政

六年四月五日（文政十年三月十九日）没、六十（六十三）歳。大慈寺。※「正」「辞典」

新渡戸伝　兵学。常澄・太素。花巻の人。稲造の祖父。寛政五年十一月七日生、明治四年九月二十七日没、七十九歳。久昌寺。※「正」「辞典」

ぬ

沼宮内治右衛門　画家。秀賢・桃渓。蘭渓門。嘉永六年十一月十七日没、四十五歳。東顕寺。

沼宮内御杖　画家。秀厚・璞・蘭渓。天保八年十一月二十日没、三十九歳。東顕寺。

ね

根市権四郎　漢学者。政徳・恭斎。林信篤門。御書物奉行。元文二年二月十三日没、六十七歳。法華寺。

の

野々村良忠　画家。椿斎。弘化四年十二月十九日没、六十四歳。法華寺。

は

服部武喬　史家。此右衛門・半盲老人。隻眼。著「姓名考」「閑人雑記」等。寛政七年二月八日没、六十一歳。本誓寺。※「続」

原寛次郎　画家。衡岳。月嶺門。中閉伊郡宰。明治十六年十一月二十七日没、三十九歳。本誓寺。

ひ

東政隆　歌人。本姓南部氏。文化三年七月二十五（二十七）没、七十五歳。祇陀寺。

東政智　歌人。本姓南部氏。文政八年九月七日没。祇陀寺。

東政方　歌人。本姓南部氏。天保二年八月十九日没。

東政博　歌人。本姓南部氏。家老。天保十二年一月四日没、四十一歳。祇陀寺。

人首喜左衛門　漢学者。恒愛・好生・千葉玉成軒。花巻の人。中村惕斎に師事。享保四年に罪を得、同十六年に許される。没年未詳。※「続」

平沢昌達　医・本草。親善。伊藤東涯と親善。寛延三年四月二十五日没。報恩寺。

平野清芳　画家。治兵衛・度欽。俳人平野平角の孫。墨竹で知られた。明治四十四年五月二十三日没、九十一歳。本誓寺。※「再続」

ふ

藤井又蔵　漢学者。基邦・柳所・穆・伯彦。弘化三年、藩儒となる。長州の人。著「消夏茶談」。慶応三年五月十一日没。報恩寺。

藤田祐章（昌）　画家。喜一郎・雪迪斎。慶応三（二）年六月十二（十五）日没、六十一歳。法華寺。

藤根清右（左）衛門　書家。清七・清八・吉品・良全。寛文十年、重信公に召し出される。祐筆。正徳三年五月五日没。報恩寺。※「再続」

二見清六　歌人。蘆園。勤皇家。駒形神社宮司。明治二十三年八月二十三日没、六十五歳。正伝寺。※「辞典」

船越善四郎　画家。長善・月江。月嶺門。明治四年五月三日没。東顕寺。

古沢其人　漢学者。仁助・温斎・素樸。助教。明治十一年十二月三十日没、六十五歳。永泉寺。

古沢文佐　漢学者。行義・竹堂。東條一堂門。嘉永元年十月二十六日没、二十六歳。東都にて没す。

古館孫兵衛　書家。日省堂。代々、穀町で検断（町内の取り締まりを行う役職）を務め、寺子屋を開く。享和二年二月十八日没。永泉寺。

古館孫兵衛　書家。秦水・鶴鳴堂。文政三年九月十日没。永泉寺。

古館孫兵衛　書家。集義堂。元治元年五月三（六）日没。永泉寺。

へ

戸来源左衛門　詩・天文。実秀・祐章・章林。利視公の代、郡宰・監察となる。天文軍術に通ず。宝暦六年六月（宝暦十二年二月六日）没。東顕寺。

ほ

星合七左衛門　漢学者。佶堂。明義堂學頭・謙信流兵学者。万延三年三月十二日没、四十歳。広福寺。

星川吉寛　俳・歌。柏台。文化八年六月七日没、七十五歳。久昌寺。

星川正甫　歌・史。忠平・吉寿。著「盛岡砂子」「諸家参考系図」「公国史」等。文化二年生、明治十三年七月十六日没、七十五歳。久昌寺。※「正」「辞典」

堀内吉正　詩・書。半仙・半古・穆堂・寒岩洞主人。元治元年生、明治四十三年二月没。浄法村福蔵寺。

堀江貞右衛門　歌人。道高。享保七年七月十九日没、五十三歳。本誓寺。

堀江真清　画家。神尾善太郎、後堀江氏の養子。典・月昇。月嶺門。八幡宮社司。明治二十年十二月七（十七）日没、四十六歳。本誓寺。

本堂右内　歌人。英興。奉行・用人。天保十一年十二月七日没、六十一歳。東顕寺。

本堂左登見　画家。親博。慶応元年閏五月二十四日没、五十一歳。永泉寺。

本堂左右　画家。光亀・金卿・蘭室・文心堂。旧姓田鎖氏。鶴立斎の弟。天保十四年五月十一日没、六十六歳。永泉寺。※「正」「辞典」

本堂親知　歌人。時治・官治・萩廼屋。丹宮の子。楢山宇八郎に歌を学び、後井上文雄に従う。書は加藤千蔭に私淑。文政七年十二月十九日生、明治四十二年四月六日没、八十六歳。

本堂善五郎　画家。文政二年八月十日没。

本堂善助　歌人。明治二十一年六月十五日没。

本堂丹宮　画家。親華・桐楊・圭斎。慶応四年五月二十一（二十二）日没、七十六歳。東顕寺。

本堂通伯　儒医。親膺・子服・観水。文久二年八月十五日没、七十四歳。東顕寺。

ま

牧田命助　書・画。平馬・成弓・牧弓・歴山。文政十年九月十六日没、五十歳。芝金地院・光台寺。※「正」

松川藤四郎　漢学者。恒徳・子勉。花巻の人。初め北川尚亭門、後に中村惕斎に師事。罪を得、幽閉中、享保十一年四月五日没、六十二歳。※「続」「再続」

み

三浦圓治　医・歌。高貞・歌春・道意。宝永二年、君命にて江戸において、見坊勇と歌書を撰し、同四年成。重信公の信任を得る。享保十年十二月三十日没。法華寺。※「再続」

三浦自祐　医者・詩。尚徳・恭園。医学塾開設。文政十一年九月二十五日生、明治四十四年八月三十日没、八十四歳。法華寺。※「辞典」

箕作省吾　漢学・蘭学。水沢の人。箕作阮甫門、後養子となる。著「坤輿図識」等。嘉永元年十二月十三日没、二十八歳。小石川浄土寺。※「辞典」

美濃部徳左衛門　歌人。雅久。安永八年七月十一日没、六十一歳。東顕寺。

宮内通信　医・書。定（貞）義・文良。東皐流。天保八年十一月十三日没、六十歳。願教寺。

三輪秀機　歌人。八百之丞。秀福の弟。著「意延集」。安政四年八月十六日没、六十二歳。法泉寺。

三輪秀憲　歌人。筆之助・権之丞・平馬。秀機の子。明治十五年一月十四日（明治十四年十一月二十五日）没。法泉寺。

三輪秀秋　歌人。定右衛門。南部主計の家士。明和六年四月八日没、八十五歳。法泉寺。

三輪秀寿　歌人。権之丞。秀秋の弟。著「おどろ草」等。明和元年十二月二十三日没、七十九歳。長松院。※「再続」

三輪秀奏　歌人。多助。秀寿の子。天明四年六月晦日没、七十三歳。法泉寺。

三輪秀福　歌人。大吉・左司・良杉斎・杉斎・辺。表秀の子。著「古今集六体辨」等。天保七年三月十日没、七十五歳。法泉寺。

三輪表秀　歌人。秀精・権之丞・権吉・南雲斎。秀奏の子。日野大納言に師事。文化六年八月十九日没、七十三歳。法泉寺。

む

向井長職　歌・俳。蔵人・徳麿。明和四年九月十二日没、五十六歳。永祥院。

向井長成　兵学。外記。甲州流。慶応二年三月二十二日没、五十九歳。永祥院。

無方規伯　遷客。玄方・自雲・晦渓・方長老。以酊庵住持。柳川一件の後、寛永十三年盛岡に流謫。城下の子弟、従学す。万治元年に赦免。寛文元年十月二十三日没、七十四歳。※「再続」

村上武　漢学者。文叔・龍門。藩校助教。安永三年二月十五日生、文化五年一月十九日没、三十五歳。永祥院。

村木多喜太　漢学者。清寧。藩儒。明治四年四月二十四日没、六十九歳。東顕寺。

も

盛合伍助　画・俳・歌。南峯・光恕・白痴・有美・魯斎。閉伊郡津軽村の人。慶応二年六月二十二日没。

森松益　画家。元賢。天保十年八月十六日没、四十八歳。長松院。

や

八重樫健次　書家。広普・豊川。花巻の人。天保八年四月二十七日没、四十四歳。瑞光寺。

八角高遠　儒医。宗律・又新・杏斎。文化十三年二月二十一日生、明治十九年十二月十九日没、七十一歳。光台寺。※「続」「辞典」

八角良温　儒医・歌。穆斎。著「塵袋」「岩手の水」等。文久三年五月二十五日没、五十七歳。光台寺。

簗田秀詮　漢学者。平四郎・平右衛門・孚休。家老。著「法曹至要抄俗解」。寛政七年七月一日没、六十歳。恩流寺。※「再続」

山口静六　漢学者。之恬。東都の人。林門。元禄八年、行信公に召され儒官となる。後、暇を乞い帰る。

山口忠兵衛　史家。遼・六郎・泰款。花巻、小野寺縫右衛門清胤の次男。著「泰款雑秘抄」。嘉永五年八月二十四日没。東顕寺。

山崎吉謙　儒・詩。謙蔵・士謙・鯢山。梁川星巌に師事。藩校助教。著「鯢山詩稿」。明治二十九年五月四日没、七十五歳。正伝寺。※「正」「辞典」

山田吉祇　歌人。丹後。多賀神社神職。文政二年五月二十九日没、七十三歳。

山田吉風　国学・歌。丹後。多賀神社神職。山田美妙の祖父。文久二年十月三日没、五十九歳。東顕寺。※「辞典」

山田吉穂　歌人。伊豆・霞雲・桃林亭武麿。多賀神社神職。文化九年、藩主と衝

突し矢根森八幡宮へ左遷。著「風景歌仙」等。文政十三年八月二日没、五十七歳。

山田新之丞　歌人。元禄十六年十月二十三日没。

ゆ

湯川四郎治　画家。玉泉・智徳。玉流の子。文化十三年三（二）月二十三日没。東顕寺。

湯川湧右衛門　画家。玉流・智景。狩野玉元門。文化五年十月十八日没。東顕寺。※「再続」

湯川和喜右衛門　画家。玉僊。玉泉の子。稗貫郡八幡村に没す。七十余歳。

遊座千尋　歌人。松葉廼屋。明治二十七年一月二十四日没、六十四歳。教浄寺。

よ

横井官兵衛　兵学。淡水。中嶋良平の四男。明治二十七年七月二十三日没、七十五歳。光台寺。※「再続」

横川良助　和算・史。直胤・川辺気長・逍遙舎。寺子屋で教育。著「内史略」「見聞随筆」「飢饉考」等。安政四年九月二十九日（十二月二十三日）没、八十四歳。大慈寺。※「正」「辞典」「北方史の残影」

横田赤平　漢学者。永貞・子幹。助教。文政七年十月二十七日没、五十四歳。大慈寺。

横浜寛平　兵・書・画。慶頼・正巳・弼士・董亭。帯刀妾腹の子、本系を継ぐ。明治十二年十一月八日没、六十九歳。円光寺。

横浜慶継　画・俳。結機・梅古・萬草園。嘉永二年十二月二十七日生、明治二十九年八月三日没、四十八歳。円光寺。

横浜帯刀　兵学。慶宝・孤松館。日置流弓術師範。蝦夷地開拓を建言、忌諱にふれる。文政十二年六月二十八日没、六十歳。円光寺。

米田勝英　詩・書。武兵・冨春叟。明治十年六月二十九日没、七十九歳。東顕寺。

萬木茂徳　書・画。宇兵衛・宇助・進郷・鹿川。馬町の検断。安政四年五月二十二日。願教寺。※「正」

り

量海　八幡乗留明王院住職。新渡戸姫岳の三男。書仮名は定家に私淑、茶は孤峯不白門。弘化嘉永頃。

（了）